

市の家計簿

市民の皆さんからの税金などが昨年度どのように使われたか、令和4年度決算報告、令和4年度決算より算定した健全化判断比率、令和5年度上半期業務状況（企業会計）、職員の給与・定員状況を掲載します。

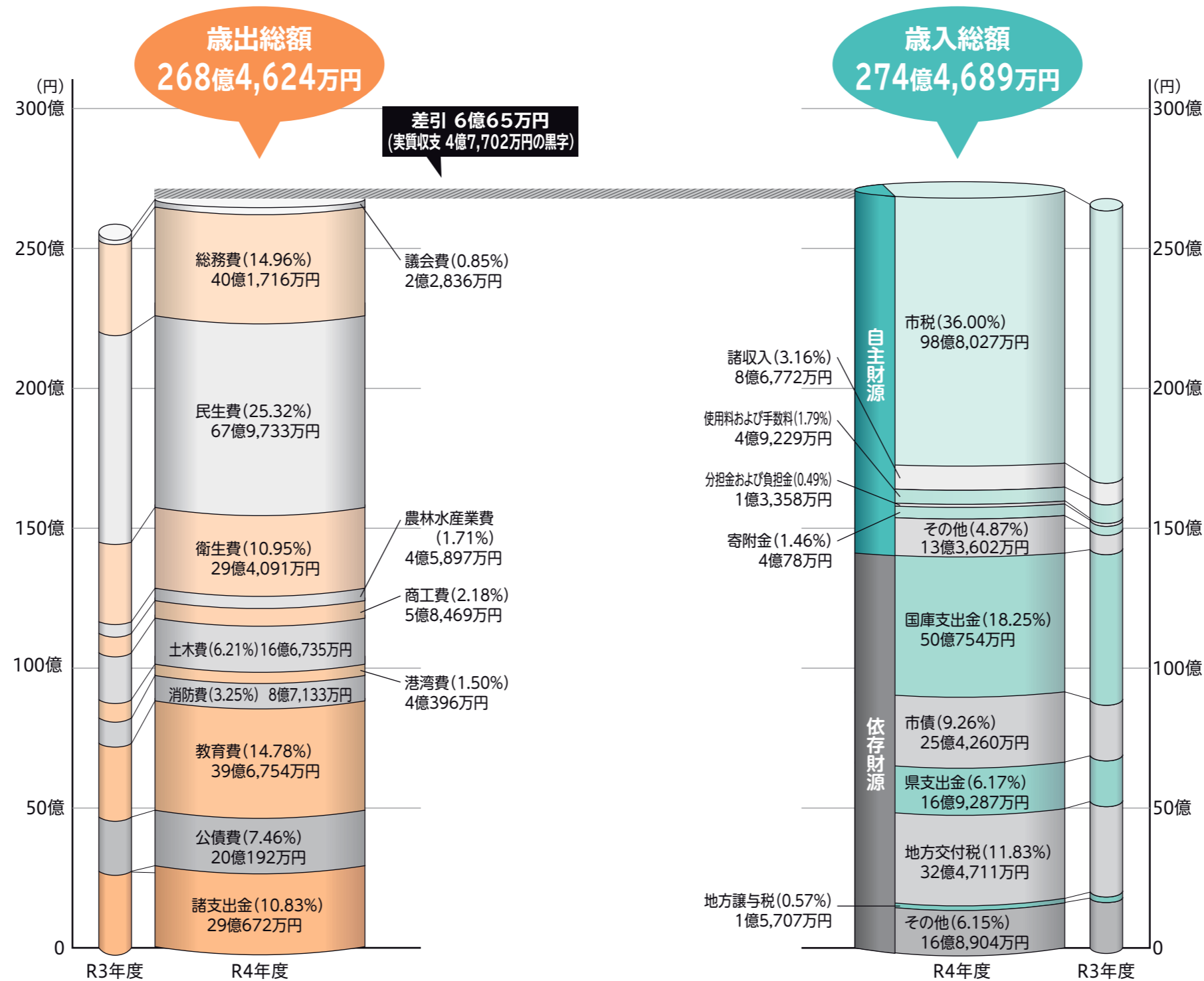
令和4年度決算報告

一般会計

新型コロナウイルス感染症・物価高騰対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。令和4年度決算については、国庫支出金や地方交付税は減少したものの、市税や市債の増加により、歳入は前年度から増加に転じています。また、歳出についても、学校給食センター整備事業や生活支援（プリペイドカード）事業により、増加に転じています。結果、歳入・歳出ともに前年度に比べ増加となっています。

令和4年度の歳入は274億4,689万円、歳出は268億4,624万円、差し引き6億65万円、差引収支は4億7,702万円の黒字決算となっています。



令和4年度中に
市民1人当たりに使われた金額
(人口50,715人(令和5年4月1日現在)で算出)

529,355円 (↑)
(497,714円)

費目ごとに見てみると...

- 総務費 79,210円 (↑) (64,030円)
- 民生費 134,030円 (↓) (146,621円)
- 衛生費 57,989円 (↑) (55,511円)
- 土木費 32,877円 (↑) (32,639円)
- 教育費 78,232円 (↑) (51,473円)
- 公債費 39,474円 (↑) (37,731円)
- その他 (諸支出金、消防費、商工費など) 107,543円 (↓) (109,709円)

○内の矢印は令和3年度決算と比較した増減を表しています。
()内の数字は令和3年度決算

本市におきましては、今後も行財政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



用語解説

- 歳入**
 - 自主財源** 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源
 - 依存財源** 国や県から交付されたり割り当てられるものなど
 - 市税** 市民税、固定資産税、軽自動車税など
 - 使用料および手数料** 施設やサービスの提供で得るお金
 - 分担金および負担金** 保育所や施設入居者の負担金など
 - 寄附金** ふるさと坂出応援寄附金など
 - その他(自主財源)** 財産収入、繰入金、繰越金
 - 市債** 道路や学校などを整備するために借り入れたお金
 - 国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税** 国や県から交付されるお金
 - その他(依存財源)** 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、環境性能割交付金、法人事業税交付金
- 歳出**
 - 議会費** 議会の運営など
 - 総務費** 総務、企画、財務、国際交流など
 - 民生費** 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉など
 - 衛生費** 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など
 - 農林水産業費** 農業、水産業の振興
 - 商工費** 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など
 - 土木費** 道路や公園、住宅の整備など
 - 港湾費** 港湾や漁港施設などの建設、維持管理
 - 消防費** 消火、救急活動、防災対策など
 - 教育費** 学校、公民館、図書館などの教育施設の維持、整備など
 - 公債費** 施設整備などの借入金の返済
 - 諸支出金** 過年度支出、特別会計繰出金など

特定の歳入をもつて特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要がある場合に、法律や条例に基づいて設置しているものです。令和4年度の8の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

Q 坂出市の財政状況は？

令和4年度決算により算定した健全化判断比率などについて

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率などの財政指標を設け、その比率に応じて早期（経営）健全化基準（イエローカード）と財政再生基準（レッドカード）が定められています。平成20年度（平成19年度決算）から健全化判断比率などを公表し、平成21年度（平成20年度決算）からは、健全化判断比率などのうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画などの策定が義務付けられています。本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおり、全て基準を下回り、本市の財政状況が「健全段階」であることを示す結果となりました。

健全化判断比率 本市の健全化判断比率は、全て基準を下回りました。

健全化判断比率	令和4年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	- (▲3.35)	12.85	20.00	一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(財政運営の深刻度を示す)
連結実質赤字比率	- (▲53.10)	17.85	30.00	全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(地方公共団体全体としての運営の深刻度を示す)
実質公債費比率	7.9	25.0	35.0	一般会計等の実質的な借入金の返済額の標準的な収入に対する割合(資金繰りの危険度を示す)
将来負担比率	73.8	350.0		一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合(将来負担の程度を示す)

資金不足比率 本市の資金不足比率は、全特別会計において、基準を下回りました。

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
病院事業	-(▲102.1)	20.0
下水道事業	-(▲9.6)	
坂出港港湾整備事業	-(▲658.0)	

資金不足比率とは
各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合で、経営状況の深刻度を示します

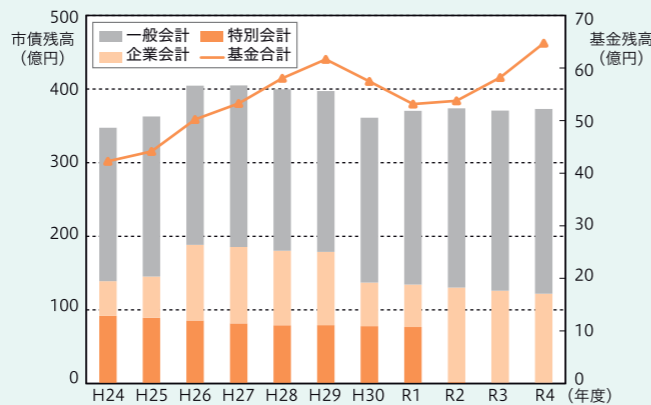
※比率が算定されない場合は「-」で表示し、参考に黒字(資金剰余)の比率を「▲」で表示しています。

Q 坂出市の預貯金と借入金はどのくらい？

基金と市債

坂出市の預貯金に当たる基金残高は、令和4年度末現在、64億7,339万円となっています。一方、借入金に当たる市債残高は、令和4年度末現在、373億30万円（一般会計250億9,932万円、特別会計1億409万円、企業会計120億9,689万円）です。

市民1人当たり 預貯金 12万7,643円
借入金 73万5,489円



令和5年度上半期業務状況(企業会計)

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	60億4,815万円	58億6,314万円
与島診療所	617万円	617万円
港湾整備事業	1億5,237万円	1,068万円
王越診療所	1,082万円	1,082万円
坂出駅北口地下駐車場事業	4,535万円	4,535万円
介護保険	59億4,651万円	57億8,616万円
介護保険介護予防支援	5,807万円	5,807万円
後期高齢者医療	10億4,099万円	10億4,093万円

貸借対照表 (令和5年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	140億6,957万円	固定負債	64億8,502万円
流動資産	1億3,686万円	流動負債	5億6,775万円
		繰延収益	54億5,274万円
		資本金	15億2,784万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合計	142億643万円	合計	142億643万円

損益計算書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

費用の部		収益の部	
営業費用	7億5,289万円	営業収益	4億3,266万円
営業外費用	8,055万円	営業外収益	4億78万円
特別損失	0万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合計	8億3,344万円	合計	8億3,344万円

有収水量 2,030,924m³

貸借対照表 (令和5年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	54億8,145万円	固定負債	59億6,233万円
流動資産	70億3,380万円	流動負債	9億182万円
		繰延収益	11億9,693万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	25億8,101万円
		評価差額等	△1億4,668万円
合計	125億1,525万円	合計	125億1,525万円

損益計算書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

費用の部		収益の部	
医業費用	64億1,542万円	医業収益	63億5,065万円
医業外費用	3億6,266万円	医業外収益	14億9,861万円
特別損失	3,979万円	特別利益	1億3,437万円
当年度純利益	11億6,576万円		
合計	79億8,363万円	合計	79億8,363万円

延べ患者数 入院 54,777人 外来 135,351人

下水道事業

令和4年度は、久米町二丁目、元町二丁目などで下水道布設工事を行い、処理区域面積の拡大を図りました。令和4年度の業務実績は、処理区域面積345.54ha（前年度比0.81%増）、水洗化人口11,433人（前年度比1.91%増）、有収水量2,030,924m³（前年度比0.46%増）となりました。また、事業収支の状況は、営業収益が4億3,266万円、営業費用が7億5,289万円で、これに営業外収支などを加えると、収支0円となっています。

病院事業

令和4年度も中讃地域の第二種感染症指定医療機関としての中心的な役割を担い、公立病院としての使命を果たすべく病院運営を行いました。また、医療機能、患者サービス、入院環境の充実を図るため、ベッドサイドモニタの増設、自動遺伝子解析装置の導入などを行いました。令和4年度の事業収支は、医業収益が63億5,065万円(13.44%増)、医業費用が64億1,542万円(2.76%増)で、これに医業外収支などを加えると、11億6,576万円の純利益となりました。

病院事業 (令和5年9月30日)

貸借対照表

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	55億299万円	固定負債	59億5,902万円
流動資産	72億7,888万円	流動負債	6億6,094万円
		繰延収益	10億7,408万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	32億7,746万円
		評価差額等	△2億947万円
合計	127億8,187万円	合計	127億8,187万円

損益計算書 (令和5年4月1日～9月30日)

費用の部		収益の部	
医業費用	31億2,316万円	医業収益	34億2,807万円
医業外費用	1億8,269万円	医業外収益	6億38万円
特別損失	2,742万円	特別利益	127万円
当年度純利益	6億9,645万円		
合計	40億2,972万円	合計	40億2,972万円

下水道事業 (令和5年9月30日)

貸借対照表

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	138億9,236万円	固定負債	64億8,502万円
流動資産	12億3,920万円	流動負債	15億9,646万円
		繰延収益	53億4,916万円
		資本金	15億2,784万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合計	151億3,156万円	合計	151億3,156万円

損益計算書 (令和5年4月1日～9月30日)

費用の部		収益の部	
営業費用	3億9,238万円	営業収益	2億1,776万円
営業外費用	3,879万円	営業外収益	2億1,342万円
特別損失	1万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合計	4億3,118万円	合計	4億3,118万円